

「大学院で学ぼう」

本学会の会員のなかには、修士課程（博士課程前期，専門職学位課程含む）や博士課程（後期）といった大学院で学ぶ機会がなかったかたもいらっしゃると思います。私が長らく勤務してきた大学は、教員のための大学として、教員養成とともに、現職教員の学び直し、スキルアップを目的に設立されたものです。

したがって、これまで多くの現職教員の先生たちと一緒に大学院で過ごしてきました。そこで、今回は、社会人・職業人として働きながら、または一時期仕事を離れて大学院で学ぶこと、あるいは学び直すことについて考えてみたいと思います。

一生の中で、働くという役割と学ぶという役割が繰り返されたり、同時並行的に行われたりすることは、有名なドナルド・スーパーのライフキャリア・レインボーにも示されています。また、学び続けることの重要性は、キャリア教育のさまざまな著書の中にも、また、文部科学省の答申などでも、提唱され続けています。

そうしたなかで、大学院で学ぶことの意義、メリットなどは、どこにあるのでしょうか。入学金や授業料を払い、仕事をしながらの場合、しんどい、眠い思いをしながら夜間大学院に通うといったコストをかけても、そこから得ることのできるものがあるからこそ、今でも、多くの社会人・職業人が大学院で学ぼうと思い、実際に学んでいるのだと思います。

そうしたメリットとしては、まず、アカデミックな考え方や方法を学ぶことができることが挙げられると思います。教員の場合、それまで、自分の勘や経験、校内研修会などでの経験から、行ったり伝えたりしていた教育実践について、例えば科学的・実証的な方法で確認したり、新しい知見を付け加えたりすることができるようになれば、そこに新しい世界が広がるといっても過言でないように思います。

昼間コースの場合、現職教員の方は、県などから2年間（大学院によっては1年間）、派遣の形で学びに来られます。この間、教育現場から一時的に距離を置くことが、とても意味のあることだと思います。近頃は多くのメディアで取りあげられるようになった教員の仕事の多忙さから一時離れ、自分の教育実践を見直し、さまざまな書籍や論文、授業をじっくり味わう機会が得られます。

全国にあまり多くないかと思いますが、兵庫教育大学には、夜間クラスがあります。ここで学ばれている方のメリットとしては、毎日、教育実践をしながら、夜間には授業を受けているため、理論と実践が同時並行的に進行し、授業で学んだことを学校での子どもたちへの授業ですぐに活かしたり、教育実践上で現在起こっていることを授業に持ち込んで考えたりできることが挙げられます。

そして、大学院に入って学ぶことを機会に、学会発表や論文投稿を行う大学院生の

方もとても多いのです。そうした発表や論文作成の方法を独学で学ぶことは難しいと思いますが、これらを大学教員の指導のもとに学ぶことができるのも、大学院の大きなメリットだと思います。

大学院で学ぶことには、この他にも、資格取得、スキルアップ、地位向上など、さまざまな利点が考えられます。次回からは、こういったさまざまなメリットとともに、大学院での学びを目指すときに留意することなどについてもお話ししたいと思います。また、実際に大学院で学び、修了した人からの「なまの声」もお届けできればと思っています。

(兵庫教育大学 古川雅文)